

日向路の博物館

発行：宮崎県博物館等協議会事務局 <http://www1.bbiq.jp/miyahakukyo/>

2018年、西都原考古博物館があります西都原古墳群と、みやざき歴史文化館のあります蓮ヶ池横穴群が「古代人のモニュメント—台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観」として生目古墳群・新田原古墳群と共に「日本遺産」に登録されました。



西都原古墳群 鬼の窟古墳



蓮ヶ池横穴群

—宮博協だより第23号の発刊によせて—

宮崎県博物館等協議会 会長 黒木 義博

平成30年度の事業も皆様方の御協力により無事終了することができ、心より感謝申し上げます。

総会と第1回研修会は、昨年5月に県立美術館において、また第2回研修会は、今年2月に門川町立中央公民館並びに同町歴史民俗資料館において開催しました。

研修会では、文化財の予防保存や自然災害への備えに関する講演と視察見学等を行い、研鑽に努めることができました。

また、これまで検討を進めてきた災害時の相互協力について、規約を定めたほか事務手続きを整え、今年度より制度の運用を開始しました。

平成元年に発足した「宮崎県博物館等連絡協議会」を前身とし、平成13年度に設置された当協議会は、これまで職員の研修や情報交換を行うとともに、ミュージアムマップの作成等を通じて連携を深めて参りましたが、平成が終わり新たな時代にあっても、会員館・園にとってますます有意義で役に立つ存在でありたいと考えています。

当協議会では、会員館・園の皆様の御意見を伺いながら、本会活動の充実に努めて参りたいと思いますので、皆様の御協力、御支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

平成30年度 宮崎県博物館等協議会 実施事業

1 平成30年度 総会、第1回研修会

【期 日】 平成30年5月25日（金）

【会 場】 宮崎県立美術館

【開会行事】 会長あいさつ 宮崎県総合博物館 館長 黒木義博

【総 会】 ○ 議 事

- ・ 平成29年度事業報告について
- ・ 平成29年度決算（案）及びミュージアムマップ更新積立金残高報告について
- ・ 役員改選について
- ・ 平成30年度事業計画（案）、予算（案）について
- ・ 災害時相互協力等に関わる規約（案）について

○ その他

- ・ ミュージアムマップの訂正シール、会報の配付の遅延について
- ・ 新規に加盟する館の勧誘について
- ・ ホームページの更新及びSNSの利用について
- ・ 災害時相互協力基金（案）について
- ・ 教育データベースへの情報提供について
- ・ その他

【研修会】 ○ 講 演

- ・ テーマ「文化財の予防保存」
講師：大分県立歴史博物館 学芸員 稗田優生氏

○ 視 察

- ・ 宮崎県立美術館 コレクション展「第1期」
解説：宮崎県立美術館 主査 大野博文氏

2 平成30年 第2回研修会

【期 日】 平成31年2月15日（金）

【会 場】 門川町立中央公民館、門川町歴史民俗資料館

【開会行事】 会長あいさつ 宮崎県総合博物館 館長 黒木義博

【研修会】 ○ 視 察

- ・ 門川町歴史民俗資料館
概要説明：門川町教育委員会 主査 川越和子氏
展示解説：門川町教育委員会 社会教育指導員 窪田麗子氏

○ 講 演

- ・ テーマ「自然災害の備えについて」、図上訓練「自然災害の対応について」
講師：NPO法人宮崎県防災士ネットワーク 理事長 芝崎敏之氏

○ 情報交換会、説明

- ・ 自己紹介及び、所属施設の災害等の現状について
- ・ 災害時相互協力及び、災害時相互協力基金について

3 災害時相互協力

- ・ 災害時相互協力基金の受付開始

4 広報

- ・ ホームページのリニューアルを実施
- ・ SNS（Facebook、Blog）による情報発信を開始

平成30年度 総会・第1回研修会について【報告】

1 総会

午前の総会では、前年度の事業報告と会計監査報告及び決算（案）、役員改選（案）、新年度の事業計画（案）と予算（案）、災害時相互協力に関する規約（案）といった、第1号～第6号議案について説明と協議が行われた。原案通り承認を受けた。

また、その他の議題として、ミュージアムマップの修正シールや会報の配付遅延、新規加盟館の勧誘、ホームページやSNSの活用、災害時協力基金の開設について事務局より説明があった。加盟館からは、宮崎大学農学部附属農業博物館より教育支援データベースへの情報提供について、みやざきアートセンターを運営する宮崎文化本舗より地域ESD推進ネットワークへの加盟について紹介があった。また、総会の最後に、出席いただいた会員館の自己紹介を行った。

2 第1回研修会 講演

午後の第1回研修会では、講演と視察を行った。講演は、大分県立歴史博物館の学芸員 稗田優生氏より、「文化財の予防保存」というテーマで講演をいただいた。視察では、宮崎県立美術館の主査 大野博文氏によるコレクション展「第1期」の解説と案内をいただいた。

稗田氏による講演は、実際の取り組みに基づいており、具体的で、多くの示唆に富む内容だった。主な講演内容を以下にまとめる。



稗田氏による講演

- 文化財が壊れてから修理しようとするとう費用がかかり、修理する範囲や対処も大きくなる。それに対して、傷みが無い状態から保存し、傷みが進まないように、文化財が劣化する要因を防いでいこうとする“予防保存”という考え方がある。結果的に修理が必要となっても、軽微な応急処置で終わる場合もある。
- 文化財が劣化する要因は、温度や湿度、光、空気、生物、振動や衝撃、災害、管理上の不注意などである。この要因を取り除く環境作りが必要となる。短期や瞬間的な作用には防災や、防犯、輸送や梱包での取扱いの注意など、優先的に取り組まれている。しかし、温度や湿度、光、虫害や空気汚染などは劣化や損傷が目に見えるまでに時間がかかる。つまり、中長期的な作用に対しては、温湿度の変動の抑制、照明の制御、空気環境の保全、生物被害の防止など、日常の管理が必要となる。
- 温度と湿度は、文化財の材質に応じた値がある。また、大事なことは急激な変化が無いように、安定した温湿度に管理されなければならない。空気の循環や温湿度計の位置なども工夫が必要となる。また、収蔵庫全体の管理が難しい場合は、桐箱や保存箱などで個別に管理する方法も効果的である。
- 生物被害の防止では、保管環境の整備や薬剤燻蒸など、複数の防除法を合理的に組み合わせるIPM(総合的有害生物管理: Integrated Pest Management)という考え方がある。虫が来ないように保管環境を整備した上で、必要があれば薬剤による殺虫処理を行い、それでも虫が消えなければ施設等の薬剤処理を行うといった、複数の防除法を組み合わせる段階的に行い、100%の防除を目指す。それぞれの施設の特徴や状況に合わせたIPMの方法があると思われる。文化財害虫の例: ヒメマルカツオブシムシ、ヒラタチャタテ、タバコシバンムシ。クモは文化財害虫ではないが、クモが食べる虫が存在する可能性を示している。虫害を防ぐためにも、侵入防止、清掃、低温低湿度を保つなど保管環境の整備が必要となる。日々のチェックも重要となる。
- カビの発生条件を知り、発生を防ぐために、温度を一定に保ち、湿度は60%以下で、カビの養分(手垢)に気をつけなければならない。カビが発生した場合は、可能な場合は材質に応じた処置をしてクリーニングをする。それ以外は専門家に相談するようにする。また、カビは人体にかなりの影響を及ぼすので、マスクや手袋や髪の毛を守るなど注意が必要である。
- 文化財を守るための日常管理として、点検(定期的に目で確認を)、記録(資料の記録だけでなく、点検日や清掃の履歴も記録を)が大切で、小さな変化を見逃さない事が必要である。
- 災害(地震、火山噴火、放射能、水害)への対処も日頃から考えておかなければならない。
- 大分県立歴史博物館では、館内の温湿度と害虫の管理や館外の動植物の把握を行っている。被災文化財のレスキューも行っており、必要な資材の管理では職員で情報共有を行っている。また、近くの魚市場の冷凍庫を文化財の緊急の避難先とできるように協力を得ている。

平成30年度 総会・第2回研修会について【報告】

1 視察研修

資料の寄贈に対して館内の収蔵と保管が可能な空間が限られている事、資料の展示に際して、現在は使用され無い民具の資料キャプションの作成では的確な解説が難しい事、生活体験の限られた子ども達に昔の道具の説明をする際に解説を十分に準備しておくべき事などが、資料館の運営面で述べられた。各会員館でも同様の問題を抱えている可能性がある。協議会の視察が、資料の不確かな点について、参加者の知見や専門家の情報が活かせる機会となるよう、今後も努力したい。



窪田指導員による展示解説

2 講演及び演習

大規模災害に対して、施設の安全に対する事前の心得や重要事項、災害発生時の施設職員としての対応や行動など、具体的な例を紹介しながら講演を頂いた。国内で発生した地震や津波等の事例や映像は、出席者に危機感を抱かせ、災害への備えの重要性を再確認できる良い機会となった。また、過去の宮崎の地震や、台風災害についても触れながら、各館の施設見取り図や施設周辺図から災害発生時の状況を想定する演習を行い、災害時の施設対応へ当事者意識を抱くことができた。当協議会として、災害対応について定期的な研修を行う意義はあり、文化財保護のため、災害時協力の必要性を広く啓発できるように今後も努力したい。



芝崎氏による講演・演習

3 情報交換会及び説明

自己紹介を兼ねて、今年度の各館の台風被害の状況や、受講の感想を述べていただいた。各参加者から、災害に対して文化財保護の備えや、来館者対応の備えを十分に想定し、避難訓練等を実施することの重要性が述べられた。また、現状で設置が不安定な文化財等の対応への質問等も挙げられた。

協議会事務局から、本年度から施行されている災害時相互協力の具体的な活動について、基金の開設及び受入開始と合わせて説明を行った。

【事務局からのお知らせ】

○ 災害時相互協力基金について

研修会で説明を行い、基金の受付を開始しました。来年度の総会でもご説明をいたします。HP等でもお知らせしておりますので、寄付の相談や問合せ等ありましたら、事務局までお知らせください。

○ 会員館のイベント広報について

協議会のホームページ及びSNSで会員館のイベント情報を広報しています。ぜひ、情報をお寄せください。また、記事の「シェア」等によって情報が拡散しますよう御協力ください。

○ 施設情報の更新について

会員館の施設情報について、4月初旬に確認のFAXをいたします。御協力ください。

※ 協議会の研修や活動について、ご意見等ございましたら、事務局までご連絡ください。

【発行】 平成31年3月31日

〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4-4 (宮崎県総合博物館内)
宮崎県博物館等協議会 事務局
Tel. (0985)24-2071 Fax. (0985)24-2199